厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書（令和2年度）

高齢者がん診療指針策定に必要な基盤整備に関する研究
「高齢者がん患者の内科系治療」

研究分担者　相羽　惠介　東京慈恵会医科大学　腫瘍・血液内科　客員教授

研究要旨

本分担研究では、高齢者がん患者の内科系治療」に関する医療・社会情報を収集整理することにより分析・理解を深め、「高齢者がん患者の内科系治療」の指針を策定するために必要な基盤を整備することが第一義的目標である。前年度までには、「高齢者がん患者の内科系治療」の基本的事項を「高齢者がん医療 Q&A 総論」と題する冊子体の構成章内に纏めることが出来た。その後 2020 年 3 月には、「高齢者がん医療 Q&A 各論」を研究班報告書として纏めた。最終到達目標はガイドラインの作成であるが、当該分野はエビデンスが極めて希薄であるため、ガイドラインの前段にあたる提言書の作成を目指した。実地臨床ではいわゆる“プレフレイル≒vulnerable”な患者への対応が最も苦慮される。大腸癌のがん薬物療法は、他癌腫と比べて治療のアルゴリズムが比較的明確かつ定型的に整理されているため、“プレフレイル”な高齢大腸癌患者をプロトタイプとして精査・検討し、プレフレイル高齢大腸癌に対するがん薬物療法の提言書を纏めた。

A．研究目的

1) 規定年間における研究目的は、「高齢者がん患者の内科系治療」における情報を整理し、診療方針策定に必要な基盤の整備である。

B. 研究方法

1) 「高齢者がん医療 Q&A 総論」の編纂

初期到達目標としては、全体を俯瞰する「高齢者がん医療 Q&A 総論」の編纂を目指した。本研究班では「高齢者がん診療指針準備委員会」及び「小班」を設置し、当分担研究班では有機的に協働することにより初期目標の到達を継続して目指した。

2) 「高齢者がん医療 Q&A」の各論」たる各臓器別の Q&A 集の編纂

後続の目標は、「高齢者がん医療 Q&A」の各論」たる各臓器別の Q&A 集の編纂である。この「高齢者がん医療 Q&A 各論」―臓器別―の編纂のために、内科領域の編集委員会を開催し種々検討した。これに附随して本分担研究である「高齢者がん患者の内科系治療」についても、従来の範疇を超えて検討すべき諸臓器癌をさらに加えて、各論を構成し、執筆者や査読者を選定、依頼した。

3) 「高齢者がん医療協議会(コンソーシアム)」活動を通しての Q&A 編纂の質向上

本研究班に加えて、国内のがん関連 23 団体と 2 学会の参加協力による「高齢者がん医療協議会(コンソーシアム)」を 2019 年 1 月に設立した。コンソーシアムの活動を「高齢者がん医療 Q&A 総論」や「高齢者がん医療 Q&A 各論」の編纂に反映させ、「高齢者がん患者の内科系治療」についても補完活動とする。

4) “プレフレイル”ながん患者に対する内科的診療方針、治療方針の検討

高齢者の中でも特に対応が困難ないわゆる“プレフレイル≒vulnerable”な患者群に対する内科的診療方針、治療方針を検討、試案を得ることを検討する。各臓器がんの中でも薬物療法のアルゴリズムの整備が進んでいる大腸癌をプロトタイプとして検討し、提言書を作成する。

5) プレフレイル大腸癌のがん薬物療法のコンセンサスミーティングを開催する

上記 4) で作成した提言書のドラフトを日本癌治療学会学術総会で開示して、広く意見交換と批評を受けることにより完成度の高い提言書を目指す。
6) 以上の 1)～5) の活動を通して附随的にも開催される種々の検討会、研修会を広報し、当該分野に興味を有する医療者、賛同一般人など人材育成に努め、「高齢者がん患者の内科系治療」に関心のある人材育成にも努める。

C. 研究結果

1) 「高齢者がん医療 Q&A 総論」の冊子体(218 頁)を研究成果として作成し得た。2019 年 5 月よりその内容を日本がんサポ-ティブ学会(JASCC)のホームペイジに掲載開示し、当該分野諸氏の意見を反映の後、2020 年 3 月に研究成果として冊子体を作成し得た。
2)「高齢者がん医療 Q&A　臓器別編」として、各論の冊子(244 頁)を 2020 年 10 月に編纂出版できた。
3) 「高齢者がん医療協議会(コンソーシアム)」活動
2021 年 1 月 16 日に全科全領域の委員、参加者などがん領域に加え、老年病領域、加齢研究領域の専門家もが参集し、上記 2) および 4) について進捗の確認とともに作成首尾について有意義な意見交換がなされた。
4) プレフレイルな高齢大腸癌患者に対する内科的治療についての検討は、本研究班構成メンバーに加えて、がん関連 23 団体参加と 2 学会協力による「高齢者がん医療協議会(コンソーシアム)」にて 2021 年 1 月 16 日に 3 回目のコンソーシアム総会を開催し、がん領域に限らず、老年病領域、加齢研究領域の専門家も参画して横断的な見地からの発表と討論、議論があり、有意義な会議であった。
5) 過去 3 年間に及ぶ活動、すなわち「高齢者がん医療 Q&A 総論」、「高齢者がん医療 Q&A」の各論」たる各臓器別の Q&A 集の編纂に加え、プロトタイプとして選別したプレフレイル高齢大腸癌のがん薬物療法について内科 WG で検討し、プレフレイル高齢大腸癌のがん薬物療法について提言書を纏めた。
6) 人材育成は焦眉の急の案件である。
「高齢者のがん医療を考える会議」を開催し、「vulnerable(プレフレイル)高齢大腸癌患者の治療」などのテーマにて啓蒙と啓発を継続して来た。また学術集会でコンセンサスミーティングの開催などを通して高齢者のがん医療の重要性と緊要性を共有した。

D．考察

1) 現下の高齢者がん医療
既に超高齢社会にあるわが国では、2025 年には、団塊の世代が 75 歳を超えて後期高齢者となり、国民の 3 人に 1 人が 65 歳以上、5 人に 1 人が 75 歳以上という状況になる(いわゆる 2025 年問題)。極めて逼迫した事態であるが、社会全体は言うに及ばず、医療界もその認識に乏しい。なかでも「高齢者がん医療」の対応・対策は喫緊の課題であるが、幸いがん治療や老年医学のコミュニティー間には、従来の活動や「高齢者がん医療協議会(コンソーシアム)」総会を通じて徐々にではあるが、「高齢者がん医療」の共同研究・協働作業の機運が醸成されつつある。「高齢者がん医療」の多くの部分を占めるのは「内科系治療」であることから、各領域となお一層の協力・協調関係を維持・推進することでバランスのとれた治療体系を構築することが肝要と考えられる。
2) 「高齢者がん医療」の提言書
総論と各論の Q&A 編纂を通して「内科系治療」の中心である「がん薬物療法」について、各臓器がん

における実地医療の急速なニーズとも相俟って一層の興味と注目の度合いを深めているが、エビデンス不足は否めず科学的な編纂作業は困難を極めた。今回高齢フレイル大腸がんの薬物療法についての提言書を纏められたが、今後はそれらのコンテンツの周知・拡散と批評を受けることで、次のステップである各臓器がんへの進展が望まれる。

3)「高齢者がん医療協議会(コンソーシアム)」活動の活性化

今後の展開を考えると協議会の設立と活動は極めて意義深いことである。今後とも相互連絡を密にして、研修会、検討会を重ねつつ相互の理解と課題の克服に向けた協働を推進すべきと考える。特に本分担研究である「高齢者がん患者の内科系治療」においては、「老年医学」の心身に関する知見が礎となることから、老年医学の専門家が協働するコンソーシアム活動はなお一層重要であり、益々の発展を望みたい。

4) 人材育成

高齢者がん薬物療法の人材育成は焦眉の急の案件である。実学としての「高齢者がん医療」、「高齢者がん患者の内科系治療」を担う医療者育成のため、一層の活動を推進したい。

E. 研究発表

I 著書

なし

II 総説

なし

III 原著

1. Watanabe J, Sasaki S , Kusumoto T , Sakamoto Y , Yoshida K , Tomita K, Maeda A , J Teshima J , Yokota M , Tanaka C , Yamauchi J , Uetake H , Itabashi M , Takahashi K , Baba H , Kotake K , Boku N , Aiba K , Morita S , Takenaka N , Sugihara K. S-1 and oxaliplatin versus tegafur-uracil and leucovorin as post-operative adjuvant chemotherapy in patients with high-risk stage III colon cancer: updated 5-year survival of the phase III ACTS-CC 02 trial.
ESMO Open 2021 Apr;6(2):100077. doi: 10.1016/j.esmoop.2021.100077. Epub 2021 Mar 11.
2. Aogi K, Takeuchi H, Saeki T, Aiba K, Tamura K, Iino K, Imamura CK, Okita K, Kagami Y, Tanaka R, Nakagawa K, Fujii H, Boku N, Wada M, Akechi T, Iihara H, Ohtani S, Okuyama A, Ozawa K, Kim YI, Sasaki H, Shima Y, Takeda M, Nagasaki E, Nishidate T, Higashi T, Hirata K. Optimizing antiemetic treatment for chemotherapy-induced nausea and vomiting in Japan: Update summary of the 2015 Japan Society of Clinical Oncology Clinical Practice Guidelines for Antiemesis. Int J Clin Oncol. 2021 Jan;26(1):1-17.
3. Sunami E, Kusumoto T, Ota M, Sakamoto Y, Yoshida K, Tomita N, Maeda A, Teshima J, Okabe M, Tanaka C, Yamauchi J, Itabashi M, Kotake K, Takahashi K, Baba H, Boku N, Aiba K, Ishiguro M, Morita S, Takenaka N, Okude R, Sugihara K. S-1 and Oxaliplatin Versus Tegafur-uracil and Leucovorin as Postoperative Adjuvant Chemotherapy in Patients With High-risk Stage III Colon Cancer (ACTS-CC 02): A Randomized, Open-label, Multicenter, Phase III Superiority Trial.

Clin Colorectal Cancer. 2020；19(1):22-31.

Ⅳ　学会発表

1. 相羽惠介
「高齢者がん診療ガイドライン策定に向けて～プレフレイル高齢大腸がん患者のための臨床的提言」コンセンサスミーティング
内科治療 WG
第 58 回日本癌治療学会学術集会　京都市
2020 年 10 月

2. 相羽惠介
がん診療連携を変える認定ネットワークナビゲーター　基調講演
第 58 回日本癌治療学会学術集会　京都市
2020 年 10 月

3. 渡邊清高、調憲、浅尾高行、相羽惠介、佐々木治一郎、藤也寸志、竹山由子、片渕秀隆、境健爾、吉田稔、矢野篤次郎、加藤雅志、冨田尚裕、西山正彦
地域における連携ニーズの分析による類型化がん医療ネットワークナビゲーターの役割
第 58 回日本癌治療学会学術集会　京都市
2020 年 10 月

4. 手島仁、豊島明、楠本哲也、渡邉純、坂本義之、吉田和弘、冨田尚裕、前田敦行、横田満、田中千弘、山内淳一郎、相羽惠介、森田智視、植竹宏之、杉原 健一
ACTS-CC 02 追跡結果　Stage IIIb 大腸癌術後補助療法としての SOX と UFT/LV の第 III 相試験
第 58 回日本癌治療学会学術集会　京都市
2020 年 10 月

5. 吉田稔、調憲、相羽惠介、渡邊清高、佐々木治一郎、冨田尚裕、竹山由子、矢野篤次郎、片渕隆
がん診療連携を変える認定ネットワークナビゲーター　認定がん医療ネットワークナビゲーター、指定都道府県での活動報告
第 58 回日本癌治療学会学術集会　京都市
2020 年 10 月

6. 渡邊清高、調憲、浅尾高行、相羽惠介、佐々木治一郎、藤也寸志、竹山由子、片渕秀隆、境健爾、吉田稔、矢野篤次郎、加藤雅志、冨田尚裕、西山正彦
がん診療連携を変える認定ネットワークナビゲーター　がん診療連携の現状と問題点:アンケート調査からみえてくるもの
第 58 回日本癌治療学会学術集会　京都市
2020 年 10 月

H．知的財産権の出願・登録状況

なし

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし